



あすもりサポーター通信



道民の森で「第8回コープの森植樹祭」を開催しました。



6月7日（日）、道民の森（当別町）で「第8回コープの森植樹祭」を開催しました。数日続いた雨も止み、体を動かすのにほど良く暖かい気候の中、総勢328名（大人226名、子ども102名）で、2013年から植樹しているFの森（Fゾーン）に向かいました。今年は参加者の8割が親子で、写真絵本「森のいのち」の作者・小寺卓矢さんも参加しました。行きバスの中では、植樹計画を立てた森づくりワークショップのメンバーから、森づくりへの思い、植えた後の育樹の大切さを聞き、これから植える樹種の説明を受けました。森の中で注意が必要なスズメバチやマダニ、ウルシについても教えてもらいました。

Fの森（Fゾーン）での植樹は3年目になります。今年は植樹ゾーンごとに「森の天ぷら」「山の花見」「頼もしい木」「低木」「針広混交林」とテーマが決まっていました。将来の森の姿をイメージしたそうです。オヒョウ、タラノキ、エゾヤマザクラ、ハルニレ、エゾノコリンゴなど、20種1000本を植樹しました。家族で力を合わせ、小さな子どもシャベルで上手に植えていました。植樹後には、全員で「ヤッホー！」と2回叫んでから、森づくりワークショップメンバー・吉川さんのハーモニカの演奏に合わせて「ふるさと」を大合唱。清々しい一体感に包まれました。



午後からは、親子チームと大人チームに分かれて森に親しむプログラムに参加しました。親子チームは8チームに分かれて、北海道森林管理局の大塚さんをリーダーに、案内所前で「森の探検～森のビンゴゲーム」を行いました。森の中に入って、決められたテーマに沿った自然を発見するゲームです。親子で目を凝らし、葉の数、形、手触りなど、草や木の特徴を注意深く観察しました。最後はみんなで輪になって座り、お気に入りの葉っぱを持ち寄って、どこが気に入ったのかを発表しました。子どもたちの表情は、宝物を見つけたような喜びにあふれて見えました。

大人チームは北海道林業技士会の案内で、学習センターから案内所までの森の中を散策しました。おいしい空気を吸い、緑の美しさに感動し、あらためて自然と森づくりの大切さを感じていました。「育樹作業にも参加して、苗木の成長を見ていきたい」という声もたくさんいただきました。大人も子どもも楽しく、たくさんの発見をして、緑が活き活きと輝いて見えた、まさに「森の命」を感じた一日でした（文/基金運営委員・金子祥子、写真/小寺卓矢）。



道民の森で「育樹会」を開催しました。

5月23日、道民の森（当別町）でAゾーンの育樹、Fの森（Fゾーン）で植栽木調査、補定作業を行いました。

Aゾーンでは2008年から2012年までの5年間、毎年約0.5haの植樹をしてきました。2008～2010年度エリアの苗木は成長してきており、育樹の必要はあまりありませんが、2011～2012年度エリアはまだ幹や枝が細いため積雪等の影響を受け、補定作業が必要なものが多い状態でした。Fの森（Fゾーン）は2013年から、毎年0.5haの植樹をしています。根踏みや折れた苗木の補定作業のほか、オオイタドリやギシギシ等の雑草が多いので、抜き取り作業や樹高の低い苗木が夏場の草刈作業時に誤って刈られないように、竹串で目印を付ける作業も行いました。

森づくりワークショップのメンバーから、あすもりサポーターへ、作業を伝える場面もあり、森づくりが人から人へ伝わり、あたたかい森づくりが進行していると実感できる育樹会となりました。





2015年度の森づくりワークショップに寄せて



あすもり基金の森づくりワークショップ（以下、森WS）は、2012年に始まり、今年で4年目になります。最初に目にした景色は広大な牧草地で、ここを森にすると聞き、「どうなるんだろう」という不安と、「どんなふうが変わっていくんだろう」というワクワクする気持ちが入り混じっていたことが思い起こされます。最初の年は地図とにらめっこしつつ土地の変遷についての解説や樹、森、足元に生えている草花について調べて学び、暮らしている生き物たちの痕跡などを見つけ、一様に見えていた景色であっても、実はそこにはさまざまな生き物が暮らしていることを体感しました。乾燥した場所もあれば、湿地のような場所もあり、知れば知るほど、変化に富んだ興味深い場所であることがわかってきました。2013年度からは森WSで立てた計画に沿って植樹を行い、これまでに約3000本の樹木（20種以上）を植えてきました。

2014年度からは、森WSの活動として成長調査を行っています。成長の良い樹種は？動物によく食べられる樹種は？どうしてカツラはこんなにも折れてしまうのか？などという疑問から、植えた翌年や翌々年はどうなっているのかという、植樹の先を目の当たりにしています。自然再生に長年携わってきた自分にとっても、他の事例とは違う有意義な森づくりが進んでいます。今年で植樹活動も3年目になりますが、樹を植えることで景色も変わり、昨年とは違った出来事も数多く待っているはず。森WSについても、毎年の変化を感じながら数十年後の森の姿を思い浮かべ、自分たちの手で作りあげていくという愛着が持てる活動にしていきたいと思うとともに、より多くの人に共感してもらい、長く続けられる活動となるよう取り組んでいければと思います（文・写真 / 雪印種苗株・木村浩二）。

2015年度の活動内容 その1（事前調査 5/13）

森WSを重ねていくうちにメンバーから出ていた声、「カタクリが咲き乱れる、春のFの森を見てみたい！」をようやく実現できました。カタクリやエゾエンゴサク、エンレイソウなど、春ならではの見どころもたくさんありましたが、やはりメンバーが気になるのは、これまで計画し植えて育ててきた樹の様子でした。花を愛でながらも、隣接する植樹地の折れた枝や幹が気になり、どう処置をするのがベストか（切ってしまうのか、補定して支えてあげるのか）を真剣に講師や仲間と相談し合っていました。



2015年度の活動内容 その2（第1回目の森WS 5/23）

晴天のもと、「育樹会」と同時開催で行いました。午前中は参加者全員でAゾーンとFの森の育樹作業を行った後、「植えた木はどうなっているのか？」を実感してもらうために、2013年度に植えた樹木の調査（育っている大きさや折れている様子、動物による食害の痕跡など）を行いました。午後は育樹会の参加者と分かれて、6/7の植樹祭で参加者をガイドするモリイクテラスから植樹地までのルートや植樹地の様子を確認しました。さらに、札幌に帰ってから、コープさっぽろ北12条店で、植樹祭当日の運営や現地ガイドについて打合せました。



2015年度の活動内容 その3（第8回植樹祭 6/7）

当日は森WSメンバーが植樹祭運営のサポートをしました。Fの森に季節ごとに通い変遷を見続けてきた経験を生かして、バスの中や植樹地への移動の際、参加者のみなさんに、植樹地の魅力やこれから植える樹の解説をしました。今年からの新プログラム・参加者全員による「ふるさと合唱」には、なんと！森WSメンバーのひとりがハーモニカで伴奏をしました。参加者にも大好評で、来年もぜひという声が寄せられています。午後は森の散策や森のビンゴのサポートをしながら、楽しみました♪



2015年度の活動内容 その4（第2回目の森WS 7/25）

毎年7月の森WSは同時開催行事がなく、調査や観察に専念できます。午前中に苗木の成長調査や観察を行い、午後には毎年恒例！「未開地への散策（探検？）」を行いました。

当日は背丈を超える「イタドリ迷路」に迷いながら、数年先の森づくりを考えつつ、全員で未開地を歩き倒しました。散策後は学習センターで「植えた木の廻りをどうしていくか？」を話し合い、帰りのバスの中でも、今後の「育樹」について語り合いました。次回は今年初めて行う「育樹祭」の準備に追われそうですが、木を植えた後をどうしていくべきか？、数十年先はどういう森になっているか？など、これまでにない視点をもとにした森づくりを進めています。今後の展開をお楽しみに！



（活動内容写真 / 小寺卓矢）